



宮下しょうじ応援団 発行

みやした 宮下しょうじ 応援団ニュース

第10号

ふるさとを愛し
ふるさとに恩返し
体力・熱意・誠意・プラス思考で頑張ります



3期目スローガン

危険な開発に喝!!

安全で安心した生活を守る活動

- 市の長年の課題
地域の長年の課題
自治会等の長年の課題
の解決に向けて全力を尽くします。
- 明るいまち
安全なまち
活気あるまち
の実現を目指します。
- 医療の充実
教育の充実
農林水産業の振興
を図ります。
- 幼保小のスポーツ活動
中学校の部活動
2巡目の長野国体
に向けてスポーツを振興します。

- 平成27年…東山城下地区(朝日ヶ丘)に
太陽光発電設備計画浮上。
- 平成27年…東山城下地区メガソーラー設置
反対期成同盟会発足。
- 平成28年…長野県・上田市に対し太陽光発
電設備設置規制を求める要望。
- 平成30年…土屋市長現地視察を行う。
(市長 4月就任)
- 令和元年…上田市太陽光発電設備の適正な設
置に関する条例施行。(県内市初)
- 令和3年…市条例制定後、初めての地元
説明会開催。(9月・10月・11月)
- 令和4年…継続して説明会を開催予定。

地元説明会から見えてきた事業主の体質

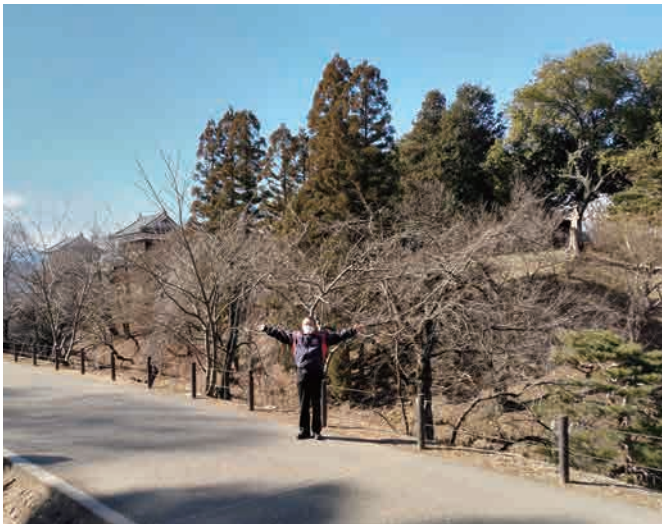
- 例1…地元説明会は行わなくても工事に
着手できるとの威圧的な発言。
反論…市条例で地元説明会が規定されて
いることを説明し発言をいさめる。
 - 例2…対象地はイエローエリアなので問題
ないとの発言。
反論…県が指定する区域で市ではレッドエ
リア(抑制地域)であることを指摘。
訂正とお詫びの発言があった。
 - 例3…説明会場で「例2」の対象地の図上
表示を求めたところ、別の場所を
記入。
反論…言語道断な対応に喝!!
 - 例4…山の傾斜は10度未満で安定してい
るとの発言。
反論…山の傾斜は10度以上であると指摘。
20度未満と訂正の発言があった。
- ### 今後地元が求める活動
- ①地質調査(ボーリング調査)を求めます。
理由…土砂崩落が発生しない固い地盤及
び土質が判断するための調査です。
 - ②地質調査の箇所数を求めます。
理由…国の基準による必要数です。
 - ③切り土土砂等の適正な処理を求めます。
理由…土砂崩落の危険を取り除くための
安全対策です。
 - ④その他住民の安全を守るため必要な内
容を求めます。
- ### 地元における対応策
- ①住民側の質問事項を事業主へ事前に送
付。(事業主の誠意を把握)
 - ②住民側の地元説明会議事録を市へ提出。
(虚偽報告の防止)
 - ③地元勉強会の開催。(事業主の真意を把握)
 - ④市側と条例に基づいた説明会の協議。
(条例違反の防止)

市の最重要課題が動くあっぱれ!!
市長は年4億円の維持経費早期解消を目指す
24年を迎えた資源循環型施設

- 平成11年…3クリーンセンター(上田・丸子・
東部)の統合方針を定める。
- 平成21年まで…建設候補地の決定に至らず。
- 平成23年…建設候補地の公募で8地区が
意欲を示すが進展せず。
- 平成24年…清浄園用地を建設候補地に示す。
- 平成29年…地元6団体から諏訪部自治会、
下沖振興組合が脱退。

宮下しょうじ議員の議会活動

- 質問 平成29年…市長に市の最重要課題
の打開を図るため、諏訪部自治会
長宅への訪問を求める。
結果 4年間でたった1回の訪問。
 - 質問 平成30年…市長のご努力で打開を
図るため、諏訪部自治会への訪問
を求める。
結果 土屋市長は就任後、積極的な地元
対応を開始する。
 - 質問 諏訪部地域対象の市長懇談会の開催
・サテライト市長室in清浄園(7回開催)
・土屋市長自ら諏訪部地域内各戸訪問
を行う。
結果 平成30年…市民に分かりやすい説明
を行うため専門家の登用を提案。
科学的根拠に基づいた議論を行うた
め専門家を登用し、地元の皆様の
理解を得る。
- ※ゴミ焼却施設の早期建設により年間4億
円の多額な維持経費の削減を目指して、
市議は最多合計14回の一般質問を行う。
- 結果 地元の皆様のご理解とご協力によ
り、資源循環型施設建設に伴う環
境影響評価業務委託が発注され、
令和5年まで行われます。
- さらに、現在資源循環型施設整
備協議会において「安全安心な施
設整備」と「地域のまちづくり」に
ついて、熱心な協議が行われ、事
業化に向けて着々と進んでいます。



上田地域のシンボル上田城跡

上田城復元に向けて あっぱれ!!

土屋市長就任後 市民より10億円余の多額寄付

- 国民の人氣が高い、真田一族の居城上田城
の復元は、NHK大河ドラマ「真田丸」の放送
により関心が高まり、市民を始め全国の真田
ファン待望の上田城復元の気運が最高潮に達
しています。私(真田丸誘致活動の城代家老)
は、市議会一般質問で何回か取り上げました。
- ①上田城の復元には、当時の写真か設計
図等の具体的な資料が必要です。
- ②市は全国的な調査を行いました。新規
の有力資料の発見はありませんでした。
- ③市は以前から城跡内の発掘調査を継続的
に進め遺構の調査資料をまとめています。
- ④国からは調査内容について四国の高松城
と同様な高い評価を得ています。
- 令和3年…市は史跡上田城跡整備専門家
会議を立ち上げ、具体的な整備
に向けた審議を始めています。
- 令和4年…上田城跡保存活用計画を策定
して文化庁の認定を受ける予
定です。
- 令和5年…二の丸復元整備の設計を行い、
旧市民会館の解体・撤去並び
に堀・石垣、武者溜まり等の
整備を進める予定となっています。
本丸整備はその後行う
予定です。



太陽光発電設備の課題に挑戦

朝日ヶ丘自治会 高橋 君江

朝日ヶ丘南側約1万㎡の山林に太陽光発電設備設置計画が浮上してから今日まで、宮下議員には常に地域住民として成すべきことの手本をいただいています。

当地は軟弱な地盤の土石流危険渓流であり、設置に当たり抑制されるべき区域を6割も含むため、市に対し太陽光発電設備の設置に適した場所への導入を図るための要望をしていた。結果、令和元年に県内の市で初めて「太陽光発電設備の適正な設置に関する条例」が施行されました。

これを受けて事業主及び設置業者の計画が災害の無い安全な施工であるかを確認するため、これまで3回の地元説明会が開催されました。今後まだまだ多く残る曖昧な計画に対し質問と要望を致しますが、何より心強いのは城下9自治会の皆様がひとつになり地域の暮らしのために取り組まれている姿であり、その中心で寄せる信頼に応える宮下議員の実行力に感謝申し上げます。太陽光に限らず、常に幾つもの課題に挑戦を続ける宮下議員の更なるご活躍を願い、応援申し上げます。



上田市城下地区災害ハザードマップより

ふれあい自由広場の創設

諏訪形自治会 今井 洋幸

平成27年9月実施の「JA事業拠点再構築」により、城下店が閉鎖されることとなりました。この時に、JAの理事を努めていた宮下しょうじ氏は、城下店の有効利用を考え「区域ふれあいセンター」としての活用を提案して、「実行委員会」が設置されました。初代実行委員長には宮下しょうじ氏が就任され、「ふれあい自由広場」が開講する運びとなりました。

翌年7月8日開講式を行い、5講座54名で「JA城下店ふれあい自由広場」がスタートしました。平成29年からは、講座会員と地域の皆さんとの交流を目的とした「青空市場・芋煮会」を開催するようになりました。

現在、活動は6年目を迎え、講座も8講座に増え、会員数は約130名となりました。

講座は、農業・健康づくり・文化等多方面にわたり、交流を通じて、仲間づくりと健康増進を目指しています。

さらに、新年度にむけて、新たに7講座の新規開講が予定されています。



開講式で挨拶する宮下委員長

地域目線の宮下議員に感謝

下之条元自治会長 中村 和幸

清浄園の一部施設移転を受け入れるか拒否するか当自治会を二分していました。住民の声をまとめ、下之条にとつても市民にとつても利益になる方向を判断するという大変困難な課題に直面していました。

こうした中で宮下議員は、すぐ動いてくれると評判が高かったのでお力をお借りすることになりました。何回も行われた市との会議では忙しい中、地元議員として参加していただき、自治会に配慮した発言を行って頂きました。役員には広い視野での確に情勢も語ってくれました。自治会が分裂せず、受け入れに合意し、地域振興が進み始めたのは、宮下議員の功績が大きいです。ありがとうございます。

粘り強い防災事業の実現に向けて

副団長 中村自治会 小野澤 義和

私は、平成24年から当時の城下地区4団体(自治連、社会福祉、防犯防災、まちづくり)各協議会で宮下しょうじ氏と一緒に行動してきました。

宮下しょうじ氏は、広い分野で行政経験豊かで城下地区を細部まで知り尽くしていることから適確なアドバイスを頂き、多くの課題の進捗を見ることができました。

中村自治会は、教育関係施設から公共の施設が集まる要衝の位置にあることから各部門でたくさんの要望があります。

以前の水田地帯が宅地化され水路整備が不十分なところへ、地球温暖化によると思われる豪雨が頻繁に発生し、会員は困窮していました。

城下地区排水路対策の要望を行った結果、諏訪形・中村・御所地域へ大規模調整池設置が決定され、現在諏訪形の金窓寺川に調整池の工事が進められています。この件につきましても、宮下議員のご尽力によるものと感謝申し上げます。

宮下会長の信念と実行力に感謝

長野県上田・小県青少年野球協議会 理事長 小林 充明

長野県上田・東御・小県青少年野球協議会は、青少年の健全育成と野球の底辺拡大を目的に令和元年に設立されました。宮下省二さんには、設立準備会の段階から陣頭指揮に当たっていただき、設立から今日まで会長としてご尽力いただいております。

小学生から高校生までの違うカテゴリーの指導者を一つの組織としてまとめながら事業を推進していくことは大変難しいことですが、宮下会長の強いリーダーシップと持ち前の決断力・実行力により、設立から4年目を迎えようとしている今、県内の同様の協議会の見本とされる組織となつてまいりました。

コロナ禍となつたこの2年間も、野球を思う存分できない子どもたちが、少しでも笑顔で野球を楽しむことができるようにするためには、「我々が行動を止めなくてはならない」という、宮下会長の熱い信念のもと、「上田東御小県野球まつり」や「元プロ野球選手による野球教室」などを最大限の感染対策を講じた上で開催し、子どもたちに野球の魅力を伝え続けることができております。

これもひとえに宮下会長のご尽力のたまものと心より感謝申し上げます。ともに、今後ますますご活躍されることをお願い申し上げます、応援の言葉とさせていただきます。



後援会で挨拶する宮下会長

「ふるさとを愛し ふるさとに恩返しをします」

夫、宮下しょうじのこの政治信条は、不安な2年間のコロナ禍でも揺るぎませんでした。例えば、2度延期になりましたが、台風19号による千曲川ゴミ除去活動の「千曲川洗濯大作戦」、鮎釣りのできる千曲川を取り戻すための「千曲川の恵みを取り戻す会」の設立活動等です。

実家の父も生前は、千曲川でよく鮎釣りをしていました。「お昼だよ」と呼びに行った時、足元から垣間見た千曲川には、大きく綺麗な沢山の鮎が泳いでいたことを思い出します。

これらの活動も応援団皆様のご理解とご協力の賜と心より感謝申し上げます。

環境活動については、年間修繕費が4億円もかかっているゴミ焼却施設について、一期から一貫して市議会提案型の質問を14回にわたり行っています。そしてようやく24年目にして、この最重要課題が大きく動き始めています。

夫は、いわなければならぬこと、やらなければならぬことを、一期、二期とも全力で行ってきました。

こうした議員活動にとって必要なことは健康です。免疫力を高めて元気に行動して欲しいいつも思っています。夫の朝食に欠かせない食品は「もずく、らっきょう、甘酒、自家製黒ニンニク」です。疲れ気味かな?と感じた時は、もちろん、「とろろ汁」です。皆様のご支援のお陰で二期目が過ぎようとしております。本当にありがとうございます。

引き続き、「ふるさとを愛し、ふるさとに恩返し」ができるよう、議員宮下しょうじを応援して参ります。

妻 宮下 範子